

宮崎ワシントンニアパーム維持管理検討会 【参考資料】

平成28年2月4日

国土交通省 宮崎河川国道事務所

【参考資料①】第1回検討会 議事要旨

第1回宮崎ワシントンニアパーム維持管理検討会 議事要旨

平成27年10月6日(火)13:30～15:30

1. 更新(植替え)の順序について

- ・橋通り区間は重要な部分であるため、最初の更新箇所から外し、一の鳥居交差点側から南に順番に進めていくことが妥当であると思う。
- ・市街地は、早めの植替えが必要と思う。
- ・更新(植替え)パターンと関連するので、併せて議論することがよい。

2. 更新(植替え)パターンについて

○周辺景観を考慮したパターン検討に関する意見

- ・周辺景観との関係を考慮し、一の鳥居の区間、中村交差点付近、運動公園では、高いものを維持した第2案の方がシークエンスを維持でき良い。
- ・空港から市街地までは周りに高い建物がないのでパームに高さがないとスケール感が出ない。街中は周辺に高い建物があるのでワシントンニアパームがある程度高くなくても気にならない。
- ・郊外と街中では違うが、全県公園化を目指し、拠点をつないでいくことが大切。これからの宮崎のアイデンティティーを造っていきインバウンドも考え、今回は点から線へつなぐ議論をする必要がある。

○景観的価値の維持(パームの高さを維持)や地元意向を尊重した更新に関する意見

- ・前回(H24 度アンケート)の「ワシントンニアパームを残してほしい」との意見の解釈は、今の景観的価値を落としてくれるなどという意見だと思う。つまり、今まで育て上げたパームの景観を大きく変化させたくないという思いだと解釈している。従って樹高の高いワシントンニアパームの景観を保ってほしいということと思う。
- ・時間軸を考慮して評価すると、端から順番に更新(第1案)は、毎年どこかでワシントンニアパームの景観的価値が下がる箇所(変化点)が生じるのに対し、1本置きに更新する案(第2案)は、ジグザグには見えるのではなく、スカイラインが2つできると思われ、ワシントンニアパームの景観的価値は比較的維持されるため2案に賛成である。
- ・現況写真をもみても、樹高差がありガタガタなので問題ないのかもしれない。現況の景観を残していきたいという地元の意思があるのであれば、それを尊重して景観づくりを進めるべきであり、2案でもよいと思う。
- ・時間軸で考えると、第2案は必ず12m程度の高さは確保でき、新しい宮崎の景観のあり方が生まれる可能性がある。

○橋通りに関する意見

- ・橋通り区間は重要な部分である。
- ・橋通りなど人が多い場所は60年サイクルで考えなくてもよいのではないかと。
- ・全体を通じて概ね第2案(1本置き)に賛成だが、デパート前～大淀川は違う方法を考えた方がよい。
- ・橋通り3丁目～市役所区間は高さがやや低くなっても統一感を出してほしい(短期間で植替え)。
- ・橋通りを樹高30mのシンボルロードにするという案もある。

○第2案(1本置き更新)の生育面に関する意見

- ・第2案は土壌改良(土壌交換)が一部となり、生育面において改良範囲が不足する可能性がある。
- ・樹高の凹凸は生物なので必ず出てくる。2案では凹凸がひどくなると思う。

○植栽間隔の見直しに関する意見

- ・アンケートでみると間引きして本数を減らしてもよいと考えている人が10%いる。現況の植栽間隔は歩いている人、車で走っている人からの見られ方を考えて設定されていると思うが、間隔が詰まっている箇所や丁度いい箇所もある。場所により植栽間隔を広くする(間引く)等、間隔についても検討する方がコスト面からもよいと思う。
- ・管理予算の問題があるのであれば、間引いても良いし、20m間隔でもよい。
- ・空港以南は60km/hで走るのでかなりの間隔があってもよいと思う。その他のバイパス部は40km/hで走るので間隔が狭くてよい。走行速度に合わせて、全体として統一感が出る間隔がよい。

3. 苗木の調達方法について

- ・苗木調達は基本的に育苗するものとし、樹高4mに成長するまでの約15年間は市場調達する方針で了承。

4. 既存木の活用について

- ・地域内には、まだ修景するべき箇所がある。そこに移植して地域性を維持させることを基本にすることが大切。
- ・宮崎市内の顔づくりとして、ここまで育ててきたものを活用していくとよい。

5. 樹種に関する意見

- ・40～50年かけてWPを植え替えることを考えると、別の種にしてもよいのでは。ジョオウヤシ、ダイオウヤシなど樹種の選定も行ってはどうか。
- ・ワシントンニアパーム、ピロウは掌状葉のヤシであり伸びない。フェニックス、ジョオウヤシは羽状葉のヤシで伸びが早い。羽状葉の方が南国イメージとしてはよいが、葉が大きくなるので、建築限界を考えると樹高を6m位にする必要があり、剪定の面からも大変である。今の植栽スペースでは掌状葉のヤシとなる。

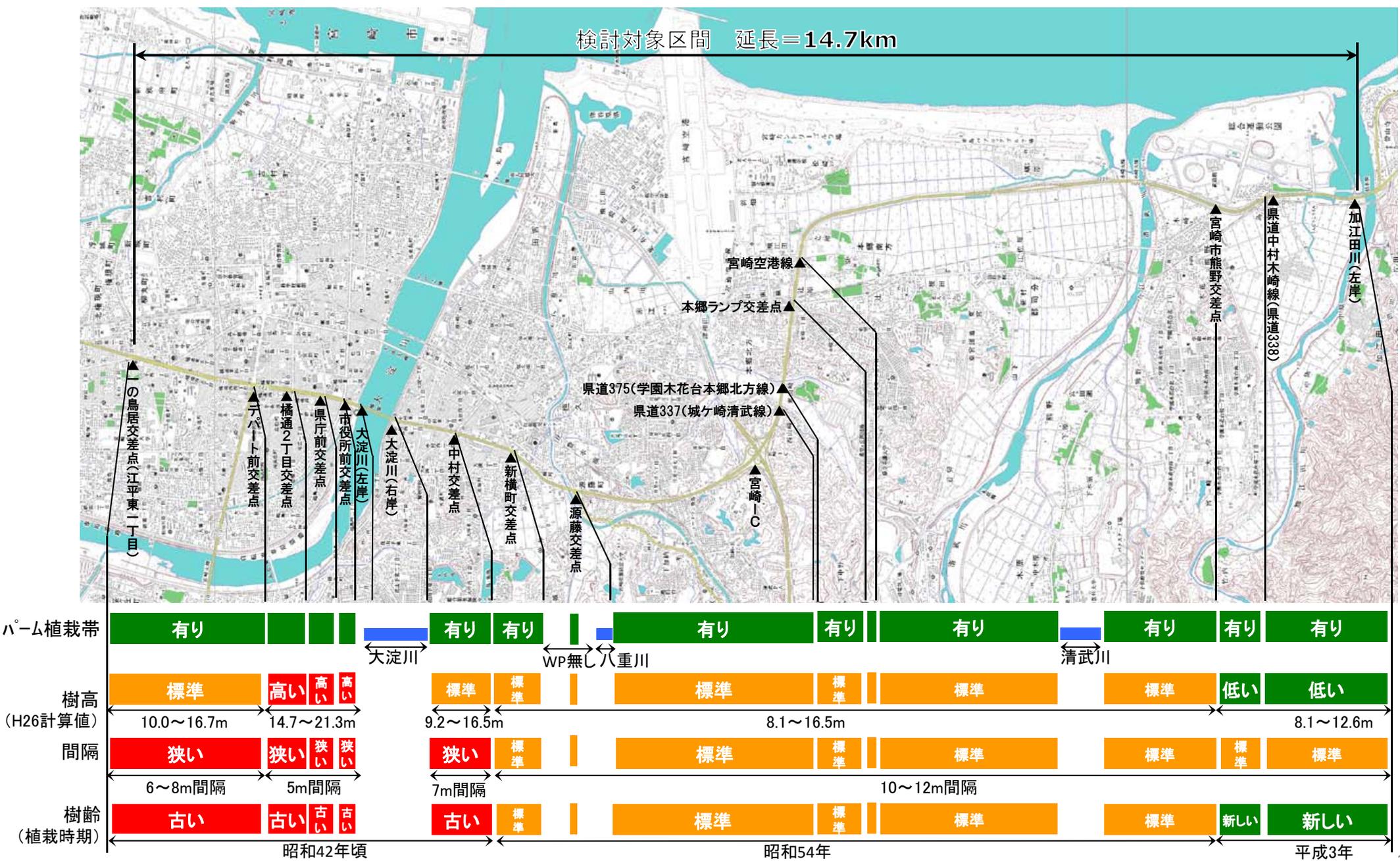
6. その他の意見

- ・ロボットアームなどで維持管理作業することなどを今後は考えてはどうか?そのような維持管理ができれば、郊外部では高さ20～30mでも良いと思う。

以上

【参考資料②】周辺景観等に基づく区間区分

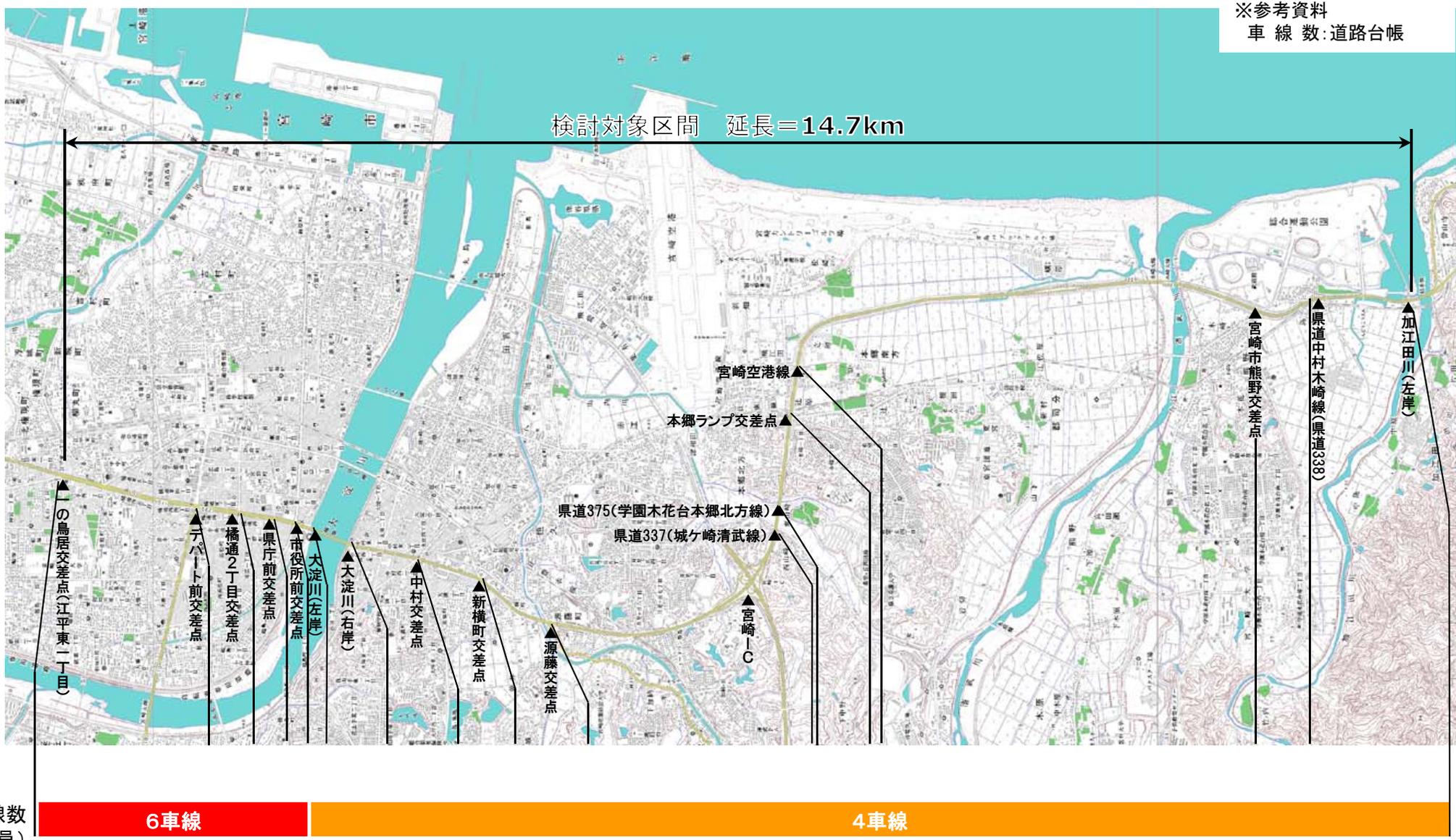
①ワシントンアパームの植栽状況(パーム植栽帯と中央分離帯), 樹高, 間隔, 樹齢)



※地図は国土地理院電子地形図より作成

【参考資料②】周辺景観等に基づく区間区分

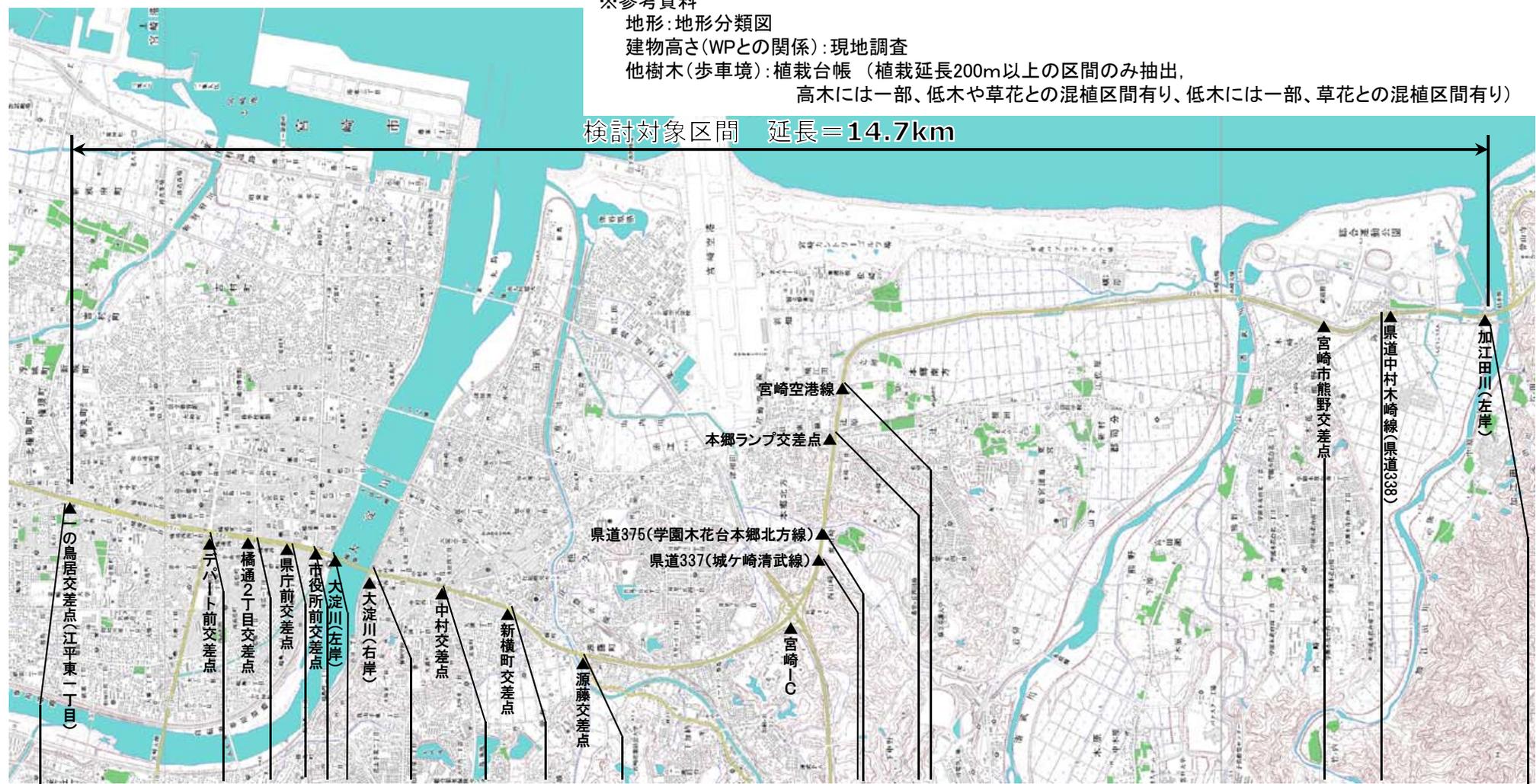
②道路空間(車線数(幅員))



③沿道状況(地形, 建物高さ(WPとの関係), 他樹木(歩車境))

※参考資料
 地形: 地形分類図
 建物高さ(WPとの関係): 現地調査
 他樹木(歩車境): 植栽台帳 (植栽延長200m以上の区間のみ抽出,
 高木には一部、低木や草花との混植区間有り、低木には一部、草花との混植区間有り)

検討対象区間 延長=14.7km



地形	平地	平地	平地	平地	平地	丘陵地	丘陵地	平地	平地	平地
建物高さ (WPとの関係)	高い	高い	高い	高い	高い	低い(密)		低い(粗)	低い(粗)	低い(粗)
他樹木 (歩車境)	高木	低木	中低木		高木	高木	高木	高木		低木
					低木有り	低木有り	低木有り	低木有り		

(植栽左側のみ)

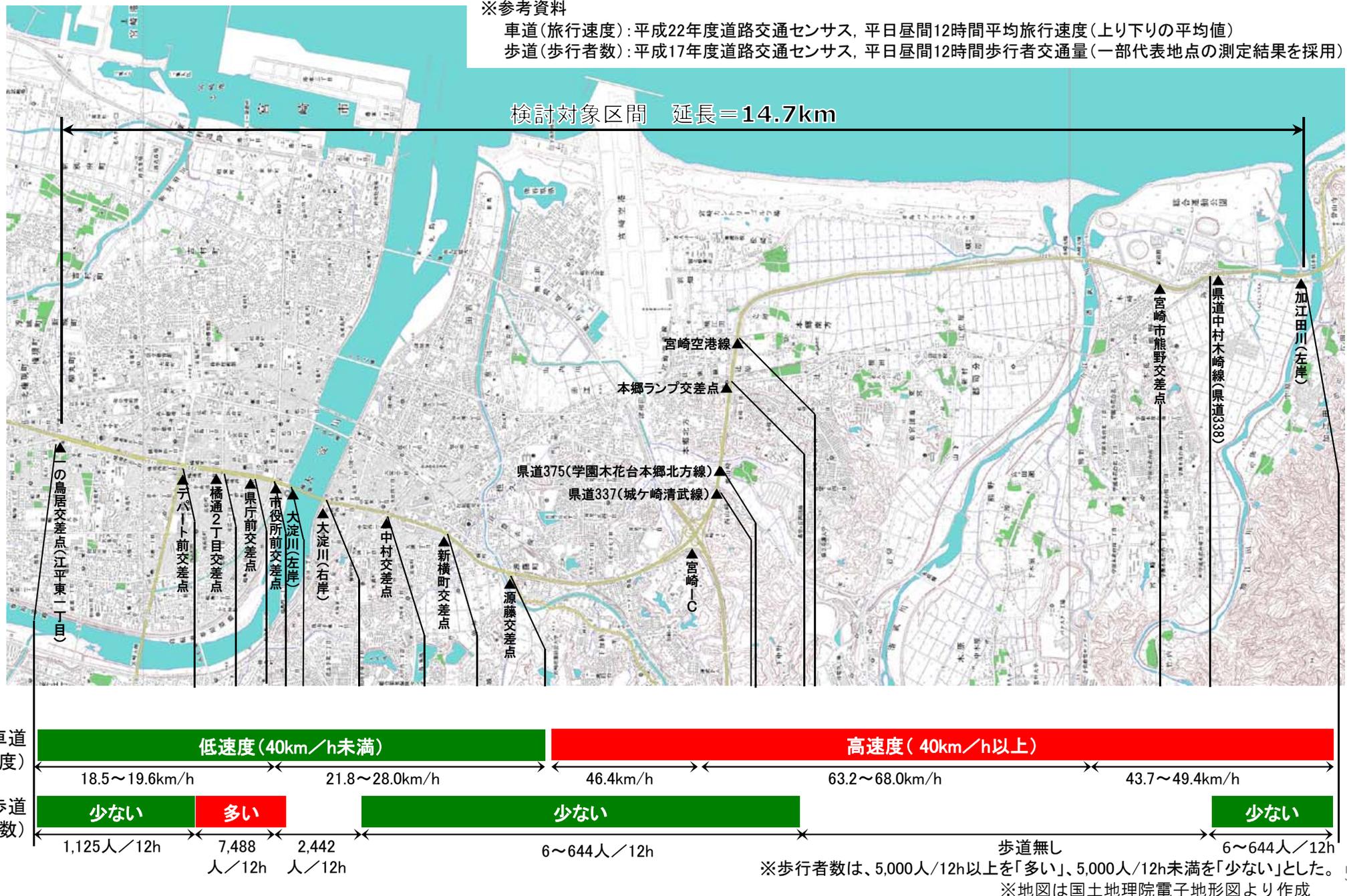
※地図は国土地理院電子地形図より作成

【参考資料②】周辺景観等に基づく区間区分

④道路利用[視点特性](車道(旅行速度), 歩道(歩行者数))

※参考資料

車道(旅行速度): 平成22年度道路交通センサス, 平日昼間12時間平均旅行速度(上り下りの平均値)
 歩道(歩行者数): 平成17年度道路交通センサス, 平日昼間12時間歩行者交通量(一部代表地点の測定結果を採用)



1) 宮崎大学構内のワシントニアパーム植栽



1) ワシントンアパームの枝払いロボットの事例

・遠隔操作でアパームの枝払いが可能なロボットの試験運用が鹿児島県で行われた事例がある。

■ワシントンアパームの枝払い機

目的	高所作業車が作業できない狭い場所での作業。 高所作業が不要となることにより，作業員の安全性を確保。
手法	遠隔操作式のロボット
試験運用場所	鹿児島県総合体育センター（鴨池公園）
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・狭い場所でも容易に移動でき，円滑に作業することができる。 ・遠隔操作により作業するため，作業員が高所で作業する必要がなくなり，安全性の確保が図れる。 ・仕上がりもきれいである。



引用：鹿児島県HP
 (https://www.pref.kagoshima.jp/af03/s
 angyo-rodo/syoko/trial/17/5wasi.html)

※情報及び写真は鹿児島県HPから引用。

- ・当該ロボットの施工可能な作業は枝払いのみ。
- ・中央分離帯における維持・管理作業としては、枯れ枝落下防止措置等も行う必要がある。

⇒中央分離帯におけるアパームの維持・管理作業での活用には、枯れ枝落下防止の措置を行う機能が新たに必要である。